

平成27年度 社会教育情報

「きばっど」 南薩の社会教育



平成28年2月10日発

南薩地区社会教育振興会



平成27年度 社会教育関係者・団体表彰



1 P T A 関係

【優良 P T A 文部科学大臣表彰】

- ・徳光小学校 P T A (指宿市)

【九州ブロック P T A 協議会表彰】

- ・大成小学校 P T A (指宿市)

【県 P T A 連合会表彰】

- ・南九州市 P T A 連絡協議会 (南九州市)
- ・指宿市立指宿商業高等学校 P T A (指宿市)
- ・川路 洋人 (県立指宿高等学校 P T A) (指宿市)

【県 P T A 広報紙コンクール (平成 2 6 年度)】

- ・最優秀賞 県立加世田高等学校 P T A (南さつま市)
- ・優秀賞 南九州市立別府小学校 P T A (南九州市)

【県 P T A 「たのしい子育てコンクール (三行詩)」】

【中学生の部】

- ・最優秀賞 中濱友希 (指宿市立山川中学校 3 年)
- ・優秀賞 大菌啓太 (指宿市立山川中学校 3 年)

【一般の部】

- ・最優秀賞 池上祥一郎 (南九州市立松山小学校 PTA)

2 公民館関係

【県公民館連絡協議会職員表彰】

- ・茶園 郁恵 (前枕崎市枕崎校区公民館主事)
- ・外菌 章 (指宿市柳田校区公民館主事)
- ・上村やよい (南さつま市益山地区公民館主事)

3 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・関 利治 (枕崎市)
- ・上村 悦子 (指宿市)

4 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

- ・山口子ども会 (枕崎市)

【九州地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・今村 俊一 (指宿市)

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・上村 一郎 (南さつま市)

【優良少年少女団体及び優良地域高校生クラブ等表彰】

- ・田布川子ども会 (枕崎市)
- ・東・西岡児ヶ水子ども会 (指宿市)
- ・内山田校区子ども会 (南さつま市)
- ・両添子ども会 (南九州市)
- ・今和泉ソフトボールスポーツ少年団 (指宿市)

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・牧園子ども会 (枕崎市)
- ・迫北子ども会 (指宿市)
- ・川畑校区子ども会 (南さつま市)
- ・佃子ども会 (南九州市)

5 読書活動関係

【子どもの読書活動推進優良図書館】

- ・指宿市立指宿図書館 (指宿市)

【子どもの読書活動推進優良校】

- ・指宿市立丹波小学校 (指宿市)

【優良読書グループ表彰】

- ・読み聞かせボランティアグループ連絡会 (枕崎市)

6 地域が育む「かごしまの教育」県民週間ポスター原画・標語関係

【ポスター原画】

- ・優秀賞 中川路万緑 (枕崎市立桜山小学校 1 年)
- ・優秀賞 桐木平藍琉 (南九州市立大丸小学校 1 年)
- ・特選 中川路芽衣 (枕崎市立桜山小学校 3 年)
- ・特選 上原捺々美 (枕崎市立桜山小学校 6 年)
- ・特選 鮫島 唯菜 (南さつま市立万世中学校 2 年)
- ・入選 新西 瑛太 (指宿市立魚見小学校 1 年)
- ・入選 池之 愛莉 (南九州市立霜出小学校 2 年)
- ・入選 大坪 栞 (南九州市立大丸小学校 2 年)
- ・入選 一氏 彩乃 (南九州市立霜出小学校 4 年)
- ・入選 籠原 愛珠 (枕崎市立桜山小学校 5 年)
- ・入選 梶 知早希 (南さつま市立加世田小学校 5 年)
- ・入選 中川路貴要 (枕崎市立桜山小学校 6 年)
- ・入選 富永奈美恵 (南九州市立霜出小学校 6 年)
- ・入選 蓮子 乙葉 (南九州市立別府中学校 2 年)

【標語】

- ・特選 堤 英次郎 (指宿市立魚見小学校 6 年)
- ・入選 中島 慈 (南さつま市立大浦小学校 3 年)
- ・入選 桑原日菜子 (枕崎市立立神小学校 6 年)
- ・入選 加治佐莉唯 (南九州市立青戸中学校 3 年)

7 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【優秀学校賞】

- ・南さつま市立笠沙小学校

【絵画の部】

- ・最優秀賞 橋口 大和 (南さつま市立笠沙小学校 1 年)
- ・優秀賞 中村日和子 (指宿市立大成小学校 5 年)
- ・優良賞 川畑 響楓 (指宿市立柳田小学校 4 年)
- ・優良賞 丸野 寧 (指宿市立北指宿中学校 1 年)
- ・努力賞 片平 証 (南さつま市立笠沙小学校 1 年)
- ・努力賞 上村 仁誉 (南さつま市立笠沙小学校 1 年)
- ・努力賞 笹山 楓太 (指宿市立丹波小学校 6 年)

【ポスターの部】

- ・最優秀賞 田中 登真 (指宿市立川尻小学校 6 年)
- ・優秀賞 杖谷 理子 (指宿市立南指宿中学校 1 年)
- ・優良賞 小吉 聖 (指宿市立丹波小学校 6 年)
- ・優良賞 西元 鈴夏 (南さつま市立川畑小学校 6 年)
- ・努力賞 松尾 杏華 (南九州市立栗ヶ窪小学校 6 年)

【標語の部】

- ・優良賞 長倉 呼春 (指宿市立魚見小学校 3 年)
- ・優良賞 大木 慎也 (南さつま市立大浦小学校 4 年)
- ・優良賞 真茅 光生 (枕崎市立別府中学校 3 年)
- ・努力賞 原 あずさ (指宿市立徳光小学校 1 年)
- ・努力賞 本田 葵彩 (指宿市立開開小学校 3 年)
- ・努力賞 上村 夏生 (南さつま市立笠沙小学校 5 年)
- ・努力賞 竹下 蓮 (南さつま市立長屋小学校 6 年)
- ・努力賞 越牟田康輝 (南さつま市立加世田中学校 1 年)
- ・努力賞 松野下尚央 (枕崎市立立神中学校 2 年)
- ・努力賞 牧田 華奈 (南九州市立川辺中学校 3 年)

受賞おめでとうございます！

家庭の教育力の向上

地区PTA役員研修会

7月1日(水)南さつま市民会館において、地区PTA役員研修会が開催されました。215人が出席し、研修1では、MBCラジオ「私たちの作文」選評者の丸山屋敏氏が、「教育は家庭の教えで芽を出し」という演題で講演されました。読書の必要性や読書好きの子どもの育て方、御自分の読書体験や大人(社会)に望む「3ルの教育」等、事例を交えてとても分かりやすく話をしていただきました。感想として、「自分らしく生きるために読書は大切だという言葉があり、本を読むことの大切さを改めて考えるいい機会になりました」「具体的な事例をもとに、様々な視点からのお話で分かりやすく、大変勉強になりました」等々、大好評でした。



研修2では、事務局から「南薩地区PTA連絡協議会努力点等について」の説明がありました。

研修3では、「家庭教育の充実とPTAの役割」というテーマでグループ別情報交換が行われました。「情報交換は、他の学校や家庭での取組を具体的に直接聞くことができとても良かったです。自分たちの学校や家庭ですぐ実施できることもあったので、提案・実践していきたい」等の感想が多かったです。

地区PTA母親研修会



10月21日(水)南九州市知覧文化会館において、地区内のPTA母親会員182人が出席して開催されました。

研修1は、MBCアナウンサーの二見いすず氏による講演でした。演題は、「花に水、人に言葉」。とても優しい語り口で言葉の大切さについて話され、最後に、「おこだでませんように」という絵本の読み聞かせで終わりました。「二見さんの優しい語りがずっと胸に入ってきました。花に水をかけるように、人に温かい言葉をかけられるようにしていきたい。聞くこと(受け止め)を大切にしていきたい」「ほめる・認める・受け入れる・待つをこれから実践していこうと思います」「単語だけの会話をしない。忙しくても子どもと話をする時間の大切さを改めて感じました」「読み聞かせはさすがです。感動しました」等々の感想が多かったです。

研修2は、グループ別情報交換会でした。30グループに分かれ、4つのテーマ(家庭における読書活動、家庭における食育、地域全体で支える子育て、スマホ・携帯・メディア等との付き合い方)から1つを選択しての情報交換は、どのグループもとても活発でした。



県PTA活動研究委嘱公開

11月28日(土)枕崎市市民会館において、PTA関係者等645人が参加して盛大に開催されました。「ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子どもを育てるPTA活動はどうあればよいか」をテーマに活動発表が行われました。

桜山小学校PTAは、小中連携したPTA活動を推進し、合同の「ミニバレー大会」や「ふるさと祭りの踊りへの参加」「リサイクル運動」等及びPTA役員引継ぎの工夫についての活動発表でした。

立神中学校は、「PTA奉仕作業の取組」「PTA研修視察の取組」「校区青少年育成地域懇談会」「おやじの会」「朝の声かけ運動」「枕崎港まつり踊り連参加」等についての活動発表でした。

講演は、NPO法人子育てふれあいグループ「自然花」理事長の大脇治樹氏による「生きる力を育てよう～家族の力が見えてくる～」で、これからの子育てにとっても参考になる話でした。



青少年教育の充実

地区子ども会大会，育成者・指導者研修会

6月21日（日）南さつま市立笠沙小学校・笠沙自然休養村管理センターにおいて，地区内の小・中学生及び育成者・指導者等392人が参加して開催されました。全体会では，表彰の後，緑町子ども会（枕崎市），迫北子ども会（指宿市），川畑校区子ども会（南さつま市），佃子ども会（南九州市）の代表が活動発表を行いました。その後，体育館で，ペタンクやビーンボウリングなどのニュースポーツや体験活動を行いました。育成者や指導者へは，MBCウェザーキャスターの前田一郎氏に，「野外活動のための天気予報」と題して講演していただきました。



南薩・北薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会



（左図は，実行委員が考案した今大会のシンボルマーク）8月8日（土）・9日（日）の一泊二日，県立南薩少年自然の家において，南薩及び北薩地区内の中・高校生36人が参加して開催されました。（南薩と北薩で交互に実施）活動1は，「アイスブレイキング・仲間づくり」で緊張感をほぐし，活動2は，「レクリエーション」，活動3は，「キャンプファイヤー」でした。活動4は，「思いを伝えよう・・・」で，ほとんどの生徒が初めてというモルルス信号を使つての活動でした。枕崎水産高校生から教えてもらいながら，楽しそうに自分の思いを伝えていました。活動5は，「思い出創作サンドグラス」で，吹上浜の砂を使ったきれいな作品ができ上がりとても喜んでいました。今回の大会で学んだことを，今後，学校や家庭・地域の中で生かしてほしいと思います。



地区ジュニア・リーダー研修会

12月13日（日）地区内の中・高校生38人が参加して開催されました。今回の趣旨は，「戦後70年を機に，地域のリーダーとして活動する中・高校生を対象に，地区内（4市）の戦跡のフィールドワークを通して平和の大切さを理解し，恒久平和を願う心情を高め，今後の地域活動の充実に資する」でした。



万世特攻平和祈念館

平和祈念展望台



花瀬望比公園

知覧特攻平和会館

地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会

10月31日（土）枕崎小学校体育館において，地区内子ども会会員・育成者・指導者等180人が参加して行われました。

全国子ども会連合会及び優良少年少女団体の表彰伝達後，山口子ども会，東本町子ども会から活動発表がありました。両子ども会とも，みんなで協力し合って元気よく発表することができました。

創作活動では，研磨箸を作りました。下地に黄・緑・白・赤・黒で塗られた箸を，ペーパーに水をつけて研磨していきます。ペーパーの角度を工夫することで色々な模様仕上げるので，それぞれ思い思いに磨いて，世界に一つしかない箸に大満足！



人権教育の充実

地区社会教育・文化財・社会体育行政研修

5月1日（金）指宿市 COCCO はしむれにおいて、地区内の各市教育委員会社会教育（生涯学習）・文化財・社会体育の行政担当者等55人が参加して研修会が行われました。

全体会では、「平成27年度県・地区の重点施策等」について南薩教育事務所からの説明がありました。その後、「社会教育」、「文化財」「社会体育」の3分科会別に研究協議を行いました。



人権教育講演会は、志學館大学人間関係学部特任准教授の原之園政治氏が、「みんなで進める人権教育～教育行政職員として～」と題して講演をされました。主な内容は、人権を取り巻く状況、具体的ないじめの態様、人権教育研修会の企画・運営時の留意点等についてでした。行政担当者として一人一人が真剣に聞き入っていました。人権教育の基本的なことや進め方について等分かりやすく話していただき、改めて人権教育の大切さや繰り返し学習することの大切さ等を痛感しました。

地区社会教育委員研修会・人権教育ブロック別指導者研修会



10月2日（金）南さつま市民会館において、地区内の社会教育委員57人が参加して研修会が行われました。研修1は人権教育講演で、NPO法人ネットポリス鹿児島島の戸高成人氏が、「生徒指導向上プログラム～ネットいじめ対策推進講座～」と題して、講演をされました。ネットいじめに係る問題場面や問題場面の指導法のワークショップも取り入れながら、スマホの使用については、各家庭でルールをしっかりと話し合っって事件の未然防止に努めること等、参加者の問題意識がより高まったと思います。

研修2は、4グループに分かれて、「家庭教育の充実」について、各市の事例発表（家庭教育学級の取組や読書活動を通じた家庭教育の取組等）をもとに協議が行われました。そして、グループで話し合われたことを全体会で発表していただきました。「他市の様子や地域の取組等が聞けてとてもよかった」「参考になったので自分の市でも取り入れていきたい」という声が多かったです。

活力ある地域づくり

地区自治公民館経営研究会

9月4日（金）サン・フレッシュ枕崎において、各市自治公民館・条例公民館関係者、各市社会教育関係者256人が参加して研究会が開催されました。研究協議では、まず指宿市山川福元公民館館長の今村善哉氏が「新たなコミュニティモデルの形成」というタイトルで、キオビエダシヤクの一斉駆除や原材料のみでの道作り等、福元区の特徴的な活動について素晴らしい発表をされました。その後の協議では、今回のテーマである「新たな地域コミュニティづくりと自治公民館の役割」を踏まえ、発表に対する多くの質疑、意見交換がなされとても充実した研究会でした。



講演は、消費生活アドバイザーの石窪奈穂美氏が「いま、自治会活動に求められること～『新しい公共』社会の中で～」と題して、貴重な内容の話をしてくださいました。「新しい公共」が作り出す社会は、「支え合いと活力がある社会」である、と強調されました。

文化財の保存・活用

地区文化財保護審議会委員等研修会



6月3日(水)枕崎市市民会館において、県文化財保護指導委員及び各市の文化財保護審議会委員・文化財行政担当者等36人が参加して開催されました。この研修会の趣旨は、「南薩地区各市の文化財保護審議会委員等が一堂に会し、文化財の現状や当面する諸問題について研究・協議を行うとともに講話や現地研修を通して文化財等の保護・活用の充実を図る」ことです。

昨年度から、午前中は従前の内容等を若干変更し、本年度も研究・事例発表及び協議を行いました。南九州市教委文化財課の坂元恒太主査の「南薩の神事絵幕」「戦争資料の文化財指定」の発表は、とても興味深い貴重な内容で、協議も活発に行われました。その後、午後の現地研修に先がけての文化財紹介を枕崎市教委の末永俊英文化課長にいただきました。

午後は、県教育庁文化財課担当から「平成27年度文化財保護行政の重点施策等について～南薩地域における文化財保護行政の動向～」の講話があり、その後、現地研修を行いました。現地研修は小雨の中でしたが、枕崎市文化財保護審議会の関利治委員に鹿籠金山及び遺構について丁寧な説明・案内をしていただきました。

午前・午後ともに充実した研修となりました。



地区「指定文化財」巡回視察

9月17日(木)南九州市において、地区内の各市文化財行政担当者及び県文化財保護指導委員、南薩教育事務所職員の12人が参加して行われました。この視察の趣旨は、「管内の市教育委員会が管理している指定文化財の保護・活用の実態を把握し、個々の課題について共同研究を行うことにより、文化財の保護・活用に資する」というものです。

本年度は、南九州市の指定等文化財を視察しました。主な場所として、君野権現洞穴(県)、天然橋(県)、勝目郵便局(国登)、知覧麓庭園(国)、知覧伝統的建造物群保存地区(国選)、森重堅氏住宅オモテ附蔵(県)、佐多直忠氏住宅附属木門目隠し(県)、知覧城跡(国)、横峯家住宅主屋(国登)、旧知覧飛行場給水塔(市)、旧陸軍知覧飛行場防火水槽(国登)、旧陸軍知覧飛行場弾薬庫(国登)、旧知覧飛行場油脂庫(市)、着陸訓練施設鎮礎(国登)を視察しました。

南九州市教委の文化財担当者から詳細な説明を聞き、貴重な文化財の価値を再認識しました。特に、今回は、ロープを伝って登っていく山手にある文化財も視察することができました。文化財を保護・活用するための大変さを改めて知る機会となりました。





「かつお釣り体験アドベンチャー」の取組

「かつお釣り体験アドベンチャー」は平成2年度に始まり今年で26回目になります。枕崎の伝統的な漁法である「かつおの一本釣り」の体験を通して、心豊かでたくましい中学生を育成することや基幹産業である「かつお漁業」について理解を深めさせるとともに、仕事を進める上での役割分担や責任の重さに気づかせながら、かつお漁業の後継者育成に努めることなどを目的にしています。

また、鹿児島水産高校の協力により実習船「拓青」を使用し、三島村黒島近海を目的地として市内の中学生10名を対象に行われています。残念なことに、台風等の影響により第3回の実習船「拓青」内での学習が中止、第4回の1泊での洋上研修は1日での実施となりましたが、枕崎ならではの体験を行っています。

【かつお釣り体験アドベンチャー活動の記録】

| 期 日 | 活 動 内 容 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------|
| 5月27日 | かつお釣り体験アドベンチャー実行委員会 |
| 7月 9日 | 第1回研修会 ・事業についての説明（保護者同伴） ・活動ビデオの視聴 |
| 7月14日 | 第2回研修会 ・本研修の役割分担 ・あいさつ等の割り当て及び練習 ・出港式・帰港式リハーサル |
| 7月17日 | 第3回研修会（台風11号の影響で中止） ・実習船「拓青」内での学習 ・かつお釣り模擬実習 |
| 7月31日 | 第4回研修会（台風12号の影響で1日での実施） ・枕崎近海での曳き縄漁及び釣り体験 ・サバ、アジ、ソウダカツオなど40匹の釣果 |
| 8月18日 | 第5回研修会 ・かつおさばきの実習 ・かつおを使った調理（枕崎鰹船人めし、腹皮の唐揚げなど） ・感想文の記入 |



曳き縄漁の様子



大物を釣り上げ大満足！



真剣にさばいている様子

生徒から「枕崎ならではのよいところを引き継ぎ、枕崎を誇りに思えるようにしていきたいです。」「みんなで協力し、最後まで元気に帰ってこられたのでよかったです。そして、この日を通して海の心地よさやみんなで協力する力、いろいろな力がつくと思います。」などの感想がありました。活動終了後にはそれらの感想を文集にまとめ、参加生徒に配布しています。また、釣り体験やかつおを使った調理の様子などをDVDにまとめ、広報活動等に活用しています。

「人権問題啓発研修会」の取組

「人権問題啓発研修会」は11月25日に市職員、教育委員会事務局職員だけでなく、各学校の教職員及び家庭教育学級生、市人権擁護委員にも参加を呼びかけ、74名が参加して行われました。

講師に県教育庁人権同和对策課研修専門員の前田隆幸さんをお招きし、「誰もが幸せに生きるために」の演題で御講演いただきました。新聞記事やDVDをもとに具体的にお話しいただき、参加者からは「公務員はすべての人に対して、公平な対応をしなければならない。今回の研修で学んだことを生かし、障害者、高齢者などについて理解を深め仕事するようにしたい。」「人間としてこの世に生まれたことは、皆一緒であるので、差別のない明るい社会の実現をみんなでもぎしていきたい。」などの感想が寄せられました。

この講演をとおして参加者一人一人が人権問題に対しての考え方や取組のあり方、また、人間としての生き方について考えさせられるなど、多くの貴重な示唆を与えていただきました。



指宿市の取組

いぶすき元気塾

指宿市では、小学5年生から高校2年生までの児童・生徒を対象とし、自らのアイデアやできることを生かした活動を行い、様々な体験を通して“生きていく元気”を培い、同時に“仲間づくり”や“遊ぶちから”を育むことを目的とした「いぶすき元気塾」を開催しています。

塾生は、10月から2月まで毎月活動を行います。

1回目の活動は開塾式でした。アイスブレイクに始まり、班分け、班活動、班長・副班長選出、活動計画の決定、発表を行います。毎月の活動計画には、「サバイバルキャンプ」「文化的な活動」「運動を中心とした活動」「宿泊体験」と4つのテーマがあり、それに沿って各班が担当月の活動内容を決定します。施設の空き状況、移動手段、時間配分など本やインターネットで情報を集めながら、より正確な活動計画内容を発表します。

2回目の活動は、サバイバルキャンプでした。午前中魚釣りをして、午後からは魚の捌き方体験、薪割り体験、飯盒炊きさんなどを行いました。薪割りは鉋で薪を割り、普段馴染みのないオイルマッチやメタルマッチを使用して火をおこしました。夕食については、本部にある食材から自分たちでメニューを考えて、必要な分量だけを取り調理を行うというものでした。塾生は様々なアイデアを出し、分からないところは指導者に聞きながら、楽しい1泊2日を過ごしました。

3回目は、郷土料理作りとクリスマスリース作り体験でした。郷土料理作りは「ガネ」、「だご汁」、「おにぎり」で、業務分担をして協力しながら調理をしていました。自分たちで作った料理は格別に美味しかったようです。午後からは、ウメモドキと松ぼっくりを使用したクリスマスリースの作製、バルーンを使ったクリスマスリースにも挑戦し、個性溢れる作品が出来上がりました。

4回目は、綱引き、長縄、障害物競走、借り物競走、リレーなどのミニ運動会を計画しています。

5回目は、鹿屋航空基地、内之浦宇宙空間観測所の見学及び、大隅少年自然の家での宿泊体験を行い、閉塾式を行う予定です。

この事業も今年で5年目となり、今後は、各校区公民館や各中学校区での活動に移行し、地域の教育力を生かした青少年健全育成活動にしていきたいと計画しております。



第30回国民文化祭かごしま2015

平成27年10月31日(土)から11月15日(日)までを国民文化祭指宿市主催事業として『躍動のいぶすき 今、輝きのとき』をテーマに、いぶすきシルバー美術展、少年和太鼓の響演、鹿児島・沖縄文化交流記念大会が開催されました。

『いぶすきシルバー美術展』は、60歳以上の美術愛好家が描いた油絵や水彩画、水墨画など263点が展示され、約2,300人が観覧されました。

『少年和太鼓の響演』は、全国各地で活躍する少年和太鼓集団15団体が指宿に集い、力強い和太鼓の響きで感動を与えてくれました。太鼓作り体験や和太鼓を実際に叩く体験コーナーも設けられ、多くの来場者で賑わいました。

『鹿児島・沖縄文化交流記念大会』は、平成21年に始まった指宿と沖縄との芸能交流を基本に、鹿児島と沖縄の文化風土の違い、類似点を学びながら、琉球芸能や琉球舞踊を媒体とする交流の輪が広がる機会になりました。

15日間で延べ7,000人を超える方々に来場していただき、芸術・歴史・文化を通して指宿の素晴らしさを全国に発信する機会となりました。



いぶすきシルバー美術展



少年和太鼓の響演



鹿児島・沖縄文化交流記念大会



南さつま市の取組

人権教育の取組



＜講演中の谷崎氏＞

途中、学生による体験発表もあり、これまでの人権教育講演会に新しい風を起こすことができました。

また、参加者へのアンケート調査によりますと、「性教育について話ができる環境を家庭でも作っていききたい。参加していい勉強になりました」「間違った知識に気付かされた気がしました。学生さんのコメント発表も参考になりました」などの感想が寄せられました。

平成27年度は、県青少年男女共同参画課との共催事業として実施しました。講師は鹿児島純心女子大学国際人間学部准教授の谷崎和代氏で、テーマは「デートDV防止啓発とアサーティブ・コミュニケーションを重視した性教育」と、これまでにないテーマを取り上げました。講演の内容も一方的な講話形式から、ワークショップ形式による対話型の講演会となりました。



＜体験発表する学生＞

学校応援団の取組

～学校支援コミュニティへの移行を踏まえて～

南さつま市は、平成28年度からすべての学校がコミュニティ・スクール（C・S）に指定され、学校を核とした地域の教育力の向上に取り組めます。そのために、学校応援団をC・Sの学校支援コミュニティへスムーズに移行していく「学校応援団」の組織化に取り組みました。組織としては、地域本部を教育委員会生涯学習課に



＜稲作の実地体験＞

また、「読み聞かせ」の支援活動においては、一方的な朗読ではなく、子どもたちに喜んでもらえるよう工夫を凝らすことにより、「子どもたちの反応を伺いながら、自分たちも楽しんで読み聞かせをすることができ、楽しかった」という感想も寄せられ、ボランティアの方の生きがいくくりにも繋げることができました。

中央本部として置き、コーディネータ

ーを地区公民館主事とするという体制で取り組みました。取組の中でまずは、人材の確保が重要と考え、「地域ボランティア登録簿」の整備を図りました。支援内容も、かなり専門的なレベルの学習支援や体験活動がなされるところもあり、充実した支援活動が行われました。



＜稲作の講話＞



＜読み聞かせ＞



南九州市の取組

市連合青年団主催「歩こう会」～「戦後70年の今」を歩く～

南九州市連合青年団では、毎年11月に“子どもから高齢者までの幅広い世代が、ウォーキングを通して、ふるさとの良さを再認識しながら交流を深め、健康増進の意識を高める機会とすること”を目的に街歩きを楽しむ「歩こう会」を企画しています。

7回目を迎えた今回は、知覧に残る様々な戦跡を巡る約12kmのコースを設定し、参加者78人、スタッフ約47人(中・高校生ボランティア11人を含む)で街歩きを楽しみました。当日は、雨天のためコースを一部短縮しての開催となりましたが、小学1年生から74歳までの参加者は、掩体壕跡や戦闘指揮所跡などの戦跡を巡りながら、70年前の知覧がどんな町だったのか、平和の大切さについて等、語りながら交流を深めました。

市連合青年団は、「南九州市のために何かできないか？」をコンセプトに、イベントの企画や交流事業、団員相互の交流など様々な活動を行っています。団員は本市在住の20～30歳代の様々な職種の南九州市をこよなく愛するメンバーで構成されています。これからも、地域のために何か頑張りたいと思っている方々を後押しする活動を行っていきます。



雨にも負けず・・・



飛行場関係施設(給水塔)

現代詩の祭典 in 南九州市

平成27年11月8日(日)、コミュニティセンター知覧文化会館において「第30回国民文化祭・かごしま2015 現代詩の祭典 in 南九州市」を開催し、市内外より630人余の方が来場しました。

4月1日からテーマは自由で現代詩の作品募集を開始し、小学生の部1,040編、中学生・高校生の部1,326編、一般の部214編の応募がありました。1次審査、最終審査を経て、各部門11賞の入賞作品と各部門十数点の入選作品を決定しました。



表彰式(文部科学大臣賞)



朗読劇(劇団いぶき)

祭典では、地元文化団体の川辺フィルハーモニー管弦楽団による演奏でオープニングを飾りました。各賞を表彰した後、受賞者を代表して文部科学大臣賞の3人が受賞作を朗読し客席から大きな拍手が送られました。

特別ゲストの和合亮一さんは、自作の詩を朗読され、その迫力に観客は聞き入っていました。劇団いぶきによる「留魂-特別攻撃隊員の遺した最後の言葉-」では、特攻隊員たちの遺書や日記を用いた朗読劇を素晴らしい演技と朗読で披露してくれました。

また、和合亮一さん、城戸朱里理さん、石田瑞穂さんの詩人3人による鼎談「詩の現在・詩の未来」では、それぞれの経験を通じた言葉で、現状の中で詩や文学が今後どのように変わっていくのかの展望が語られるなど、充実した内容で皆さん現代詩の魅力に触れることができました。

会場周辺では、県立薩南工業高等学校茶ボラによる百円茶屋と南九州市各種女性団体連絡会による昼食バザーが開催され、希望者には、隣接する知覧特攻平和会館、ミュージアム知覧の無料観覧を実施しました。



特別ゲストによる鼎談

各市の文化財紹介

枕崎市

播磨梶原（はりますぎはら）

S50.5.8 指定

捨小舟の著者である都の錦が鹿籠金山に配流中に書いた武家物語。播州赤穂の城主浅野長矩が江戸城中において刃傷に及んだ顛末から、大石ら47人が仇を討つまでを、講談風に扱ったものです。

昭和55年12月、長崎大学助教授若木太一氏により翻刻され、同月15日発行の「江戸時代文学誌第一号」によって全国に紹介されました。

播磨梶原は他に東北大学狩野文庫、静嘉堂文庫本、穎原文庫本などがありますが、いずれも写本で、ここの播磨梶原が都の錦の自筆の原本とされています。



指宿市

敷領遺跡中敷領地点3号建物跡出土遺物

H27.11.24 指定

平成26年度に敷領遺跡(指宿市十町)で行われた発掘調査で、開聞岳噴火によって埋没した、平安時代の建物跡が発見されました。建物内では、県内発の例となるカマドと石組炉を組み合わせた台所が見つかりました。平安時代に編纂された国史『日本三代実録』の記載によると、西暦874年3月25日の未明に開聞岳が噴火し、火山灰は翌日も降り続け、夕方には雨が降り、土石流が発生したとされます。この時の土石流が建物の内部を埋め尽くしたため、1千年以上たっても建物の内部がそのままの形で残っていたのです。



3号建物跡の全景

建物の中では、カマドにかけられたままの鍋や、皿や碗などの食器、液体の貯蔵用の横瓶(よこべ)といった家財道具が発見されました。

このように、家財道具が災害の日時が特定できる被災建物跡からまとまって見つかるのは、全国的にも珍しい事例であり、被災した時点での人々の生活の様子を知る上で貴重な資料であることから、平成27年11月24日、新たに市指定文化財に指定されました。



鍋がかけられたカマドと石組炉



床で土石流に埋もれていた横瓶

南さつま市

ヨッカブイ (国選択文化財)

H9.12.4 指定



高橋十八度踊りは、水難を免れるために水神（ヒッチンドン）を祭る踊りで、約300年の歴史があるといわれています。当時は、高橋と堀川の境にある「水神祠」の前で踊られていましたが、明治12年に水神は玉手神社に合祀されたので、それ以降は玉手神社の庭で踊られています。昔は旧暦の6月18日に踊られていましたが、昭和15年頃から毎年8月22日に行われるようになりました。

踊りは11歳から14歳の少年組である「小二才（子ガラッパ）」と青年組「二才衆（大ガラッパ）」によって行われていましたが、現在は子供が少なくなり、大ガラッパだけが行っています。

二才衆（大ガラッパ）は異様な姿で笹竹を振り回し、「ヒョーヒョー」と奇声を発しながら周りの見物人を笹竹で叩いたり、時には子供を抱き上げ、かますの中に押し込んだりします。それらをされると、その年は水難にあわないと伝えられています。その後、玉手神社の庭で、子ガラッパたちによる相撲踊り（現在休止）と、青少年の相撲が行われます。

南九州市

南九州市知覧伝統的建造物群保存地区

(国選定重要伝統的建造物群保存地区) S56.11.30 指定

江戸時代、薩摩藩は、藩内を113の外城（のちに郷と改称）に分け、それぞれに武士たちを配置して軍事・行政を司らせました。外城には、一門などが治める私領と、藩主が任命した地頭が治める直轄領とがありました。

知覧は、知覧島津氏（佐多氏）の領地でした。外城の中心地で、武士が居住した麓は今から約270年前に整備されたと伝えられています。

領主の御仮屋を中心に道路割をなし、防備を兼ねた城壘型の区画となっています。また、武家屋敷の戸ごとに庭園が築かれ、主屋と庭園とが調和していることと、通りに面した石垣の上には大刈り込みによる生垣が続き、地域全体が自然をよく取り入れた一つの庭園都市的な造りとなっています。伝統的建造物群及び地割りがよく旧態を保持している地区として、昭和56年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



本馬場通り



旧高城家住宅